

「さいの神」準備作業

プロジェクト事務局 松原益雄

十一月二十二日(日)午前、「さいの神プロジェクト」実行委員と小・中学生・先生方の計六十九名で、さいの神の準備作業を行いました。

例年通り、孟宗竹・細竹・わら・葦の四班に分かれて作業を行い、準備が整いました。子どもたちには、孟宗竹・わらを手伝って頂きました。

ご協力頂いた、実行委員・子どもたち・先生方には厚く御礼申し上げます。

今年は、昨年同様に九十三名の方に実行委員をお願いし(内、作業者八十七名)、実際の作業には五十六名にご参加いただきました(昨年は六十七名)。ただ、事前の回答では七十名の出席予定でしたので、当日は孟宗竹の班の人数が極端に少なくなり、急遽、他の班から作業終了後に応援をお願いして、なんとか時間内に終えることができました。

「姥ヶ山まつり」もそうですが、自治会のプロジェクト活動の準備は、大勢の実行委員にお願いして作業を行いますので、事務局では事前の出欠の回答に基づいて当日の作業分担を決めています。諸事情による急な欠席はやむを得ないのですが、その際には必ず事前にご連絡を頂きたく、お願い致します。

一月十日(日)の朝から準備をして午後三時に点火となります。

実行委員の方には、スルメ準備・組立にご協力をお願いします。

また、一般の皆様には、ぜひご家族でご参加頂きたいと思えます。



姥ヶ山諏訪社大祭を終えて

姥ヶ山氏子会 会長 青木 正

姥ヶ山諏訪社氏子会の皆様、姥ヶ山自治会、地域の皆様には、いつも温かいご理解ご協力を頂き、心から感謝いたしております。

本年も恒例の秋の大祭が、祭り実行委員会のご協力を得て過去に前例を見ない、夏台風の影響を受けた中で始まり、準備後強雨にあい一度は外した戸をはめたり、舞殿の幕が飛ばないように縄で縛ったりと大変な前夜となりました。一時は祭りの開催すら危ぶまれましたが、二十六日には風も弱まり、予定通りの開催となりました。

前回の会報にも書きましたが、皆様の御好意で出来た新しい戸と、幟のお披露目でもありましたので、本来は外す戸もはめたままで見せする事にしました。幟は、境内に集中して立てました。今後同様立てる予定です。

宮上りは自治会館出発時雨になりましたが、何とか神社までたどり着きました。神事の間に雨も上がり、盆踊りも、例年より人出は少ないながらも、楽しい前夜祭となりました。

この様な悪天候に見舞われた中でもたくさんの人出の中で成功裡に終える事が出来ました。これも自治会役員、祭り実行委員会の皆様の御尽力のお蔭と心より感謝申し上げます。

二十七日の大祭の太々神楽も大黒舞の時には多くの人が集まり、大黒様と、私達も参加して多くのお供え物を撒き楽しいひと時となりました。来年も大勢の皆様の御参加をお待ちしております。

最後に、今後とも諏訪社の運営に御理解とご協力をお願いいたします。

「姥ヶ山祭り」を振り返って

祭り実行委員長 利根川高雄

当、姥ヶ山地域で恒例となっている「姥ヶ山祭り」が例年通り、八月二十六日・二十七日に実施されました。

二日間を通して一番人気の「盆踊り」の来場者は、踊り休憩時に配られたアイスの数から約500人、踊り参加者は参加賞の数から250人と、本年も今まで同様大勢の皆さんから参加を頂きました。

過ぎ去る夏の思い出に、子供たちからお年寄りまで「盆踊り」の他に露天商・自治会主催の出店での飲食・遊びも役立っているものと思っています。

これだけの大勢の皆さんにもっと楽しんでもらえる為にはどうしたら良いか?、昨年の「祭り反省会」を基に種々検討を重ね、今年改善したものについては次のとおりです。

①踊り場が狭い、との対策として白線の輪を広く取り、更に二重とした。

②その為、本部テントを今までの二張から一張とし、設置場所も参道寄りとした。

③神社裏が暗く危険なため、LEDの外灯を設置した。

④露天商の各社に徹底して頂いた事は、発電機・消火器・駐車場の自前の用意、及び暴力団排除条例の確約書提出。

⑤駐輪場については、今まで通り付近の駐車場等を借りて確保したが、今後は参道の街路樹側を主体に検討の要あり。

今年も「姥ヶ山祭り」が盛会で終わられた事は、実行委員各位がそれぞれ責任を持って対応された事に尽きると思えます。大変ご苦勞様でした。



盆踊り大会



新調された幟と戸